

第2回「一日体験ボランティア」報告

平成26年9月7日（日） 嶽ペンションワンダーランド周辺
「NPO 法人岩木山自然学校」が行う野外炊事遠足で「防災対応炊飯体験」

今回の「一日体験ボランティア」は、NPO 法人 岩木山自然学校の高田さんのご協力を得て実施することができました。野外炊事遠足は、相馬町会の子どもたち13名、保護者の方や担当職員の方、岩木山自然学校スタッフ等10名、そして「一日体験ボランティア」参加者7名、当センターから2名と合計32名で行われました。

午前9時集合で、まずは嶽きみ収穫体験のため、畑までバス移動です。これから行う嶽きみ収穫を思い浮かべ、バスの中ではそれぞれ話が弾んでおりました。

15分くらいで畑に到着。眼前に広がる嶽きみ畑の一面に案内され高田さんより説明を受けました。畑一帯では、嶽きみの品種は統一しているということ、使用されている種は、採れた種を植えても実らないF1（雑種一代）だということでした。

今年は天候不順のせいか嶽きみも不作だそうで、最初は1人10本の制限を設けていましたが、思ったよりも嶽きみが残っているということで、途中から取り放題になり、子どもたちは歓声を上げながら、大人たちは静かに黙々と収穫を楽しんだようでした。

1時間近く収穫体験を楽しんだ後は、ワンダーランドに戻り、隣の敷地で防災対応炊飯体験を行いました。

スタッフの方たちが薪ストーブ3台に手際よく(?)火をおこし、ビールの空き缶と500mlのペットボトルにお米を1合入れてご飯を炊きます。

ペットボトルに水を入れて子どもたちにお米をといてもらいましたが、やり方がよく分からない子どもたちのために、当ボランティア参加者を含め大人たちが自然と傍に寄ってお米のとき方を教えていました。

炊き方は、金網の上にお米の入った缶を乗せて、十分に水で濡らした新聞で蓋をします。ペットボトルの場合は熱湯に入れます。空き缶やペットボトルでご飯を炊くことに参加者たちは、こんなやり方があるのかと驚いていました。

ご飯が出来るまでの間は、用意された4つの鉄板の上に、落ちている小枝や枯草を集めて、子どもたちのみで火を燃え上がらせる競争です。

大人たちは手助けしてはいけないと言われ、慣れない手つきの子どもたちに少し歯がゆい思いで見えていたようです。

高田さんのお話として、火は神聖なものであり、自然の中では新聞などの人工物は使ってはいけないということでした。

次に、災害時のトイレ対策として、ナイロン袋やごみ袋を使うなどの説明の後に、子どもたちはテントの設営の仕方を体験し、大人たちは各自じっとやり方を観察していました。

そしてマッチやライターがない時の火のつけ方として、火つけ石やレンズを使うことや、冬には氷をレンズとして利用し、火をおこすことが出来るというお話を皆感心して聞いていました。

お昼近くには缶やペットボトルのご飯も炊きあがり、意外に良く炊けているご飯に感動しつつ、じゃがいもたっぷりのカレーライスをかけて、全員が一緒にいただきました。

食後の食器は水をあまり使わないように、トイレットペーパーできれいに拭き取ります。トイレットペーパーは水に溶けるので、ティッシュなどより環境にやさしいのだそうです。

食事の後は、相馬町会の子どもたちのために、往復1時間半の散策がありましたが、「一日体験ボランティア」は少し予定変更で、ここで終了ということにし、早めの解散となりました。

アンケートでは、嶽きみ収穫体験に満足されたことや、防災対応炊飯体験はメインは小学生でしたが、それを見守りながら、なかなか体験できない防災について学ぶことができ、良かったという感想がありました。

今回の体験を今後のボランティア活動に活かしていただければと思います。